

編集後記

◇ 今年に入って、ハイチ、チリ、中国で大地震が続発した。4月にはアイスランドで大噴火が発生し、航空機の運航などに大きな影響を与えた。日本でも3月から4月に異常低温が続き、桜前線の北上が遅れたほか、野菜の高騰も生じた。これらの自然現象から、「地球は生きている」ことを改めて実感させられた。

◇ 5月25日、(財)いも類振興会の平成22年度第1回評議員会、理事会が開催された。議案は平成21年度事業報告及び財務諸表の承認などであったが、いずれも承認された。

平成21年度の収支決算における収入は、当初計画に比べて実績は上回ったが、平成20年度の実績に比べると大きく減少した。いも類振興会の主な収入源は、基本財産、特定資産の運用益であるが、2008年9月に発生したリーマン・ブラザーズの経営破綻に伴う金融危機によってマイナスに働いた。いも類振興会にとっても、公益法人見直しの動きと併せて、世界的な金融情勢から目を離せない状況が続く。

◇ 本誌104号の特集は、「サツマイモによる新食品の開発」を取り上げた。サツマイモを使用した様々な新食品が研究中であり、一部は開発され市場流通している。その動向の一端を吉永優氏に解説をお願いした。特に、低温糊化性でん粉に関して、その特徴と利用については片野豊彦氏に、その品種育成の現状と展望については片山健二氏に、それぞれ紹介いただいた。

サツマイモはいも（塊根）にとどまらず、茎葉も食品、飼料として利用の余地が大きい。茎葉を含めたいも全体の需要拡大を期待したい。

◇ 「ジャガイモのきた道」（岩波新書、2008年）の著者である山本紀夫氏から、「ジャガイモの食文化ーアンデスから世界へー」を寄稿いただいた。これまでに2回先生の講演をお聞きした。話の内容は勿論のこと、世界各地の美しいジャガイモの写真が強く印象に残っている。“ジャガイモは高山植物”と述べられているように、今回掲載された「野生のジャガイモ」の写真を見ても、間違いなく高山植物そのものだ。

なお、山本紀夫監訳の「世界の食用植物文化図鑑」（柊風社、2010年）がある。原書の編者は、オーストラリアのBarbara SantichとニュージーランドのGeoff Bryantの両氏だ。約500の「食べる植物」を、その起源と歴史、分布、学名、栽培法、食べ方・味に至るまでを解説した図鑑である。写真を見ているだけでも楽しい。勿論、サツマイモ、ジャガイモも掲載されているので、一読を勧めたい。

(狩谷 昭男)

いも類振興情報 第104号

平成22年7月15日発行

発行 財団法人 いも類振興会

〒107-0052 東京都港区赤坂6-10-41 ヴィップ赤坂303

TEL 03-3588-1040 FAX 03-3588-1225

E-mail: imoshin@fancy.ocn.ne.jp

振替 00130-1-110152

印刷 株式会社丸井工文社